

授業科目	英語教科教育法Ⅲ				単位	2			
履 修	選択	関連資格	高一種免(英語) 中一種免(英語)		ナンバリング	EN24111J			
開講年次	3年	開講時期	後期	該当DP	DP4-3 DP5-2				
担当教員	太田 かおり								
授業概要	英語教科教育法Ⅰ・Ⅱで学んだ知識・理論の実践的展開を試みる。中学校の教科書を使用した模擬授業を通じて、授業展開の方法や指導案の書き方、4技能を効果的に活用した指導技術を磨く。模擬授業を通じて、中学・高等学校における「1時間の授業」の重みを十分に理解し、実際の教育実習や英語指導において効果的な指導ができるよう指導技術と実践力を磨く。								
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業展開に則した学習指導案を作成することができる。 2. 学習指導案に即した授業を行うことができる。 3. 効果的な配布資料を作成することができる。 4. 電子黒板やパソコン等のIT機器を効果的に活用して授業を行うことができる。 5. 英語教師への志と資質を高めることができる。 								
達成度評価									
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考	
総合評価割合	0	0	20	40	20	20	100		
知識・理解 (DP1-1)									
知識・理解 (DP1-2)									
知識・理解 (DP1-3)									
知識・理解 (DP1-4)									
思考・判断 (DP2-1)									
思考・判断 (DP2-2)									
関心・意欲 (DP3-1)									
関心・意欲 (DP3-2)									
態度 (DP4-1)									
態度 (DP4-2)									
態度 (DP4-3)					20	20	40		
技能・表現 (DP5-1)									
技能・表現 (DP5-2)			20	40			60		
技能・表現 (DP5-3)									
具体的な達成の目安									
理想的レベル					標準的なレベル				
以下の項目を高度なレベルで行うことができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業展開に則した学習指導案を作成することができる。 2. 学習指導案に即した授業を行うことができる。 3. 効果的な配布資料を作成することができる。 4. 電子黒板やパソコン等のIT機器を効果的に活用して授業を行うことができる。 5. 英語教師への志と資質を高めることができる。 					<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業展開に則した学習指導案を作成することができる。 2. 学習指導案に即した授業を行うことができる。 3. 効果的な配布資料を作成することができる。 4. 電子黒板やパソコン等のIT機器を効果的に活用して授業を行うことができる。 5. 英語教師への志と資質を高めることができる。 				
授業計画									

進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	1 英語教科教育法Ⅲの授業ガイダンス 授業概要を説明し、達成目標、評価内容や方法について説明する。	講義	復習:該当部分の復習	90
2	2 CLIL の特徴について	講義	予習:該当部分の予習	90
3	3 CLIL を取り入れた英語授業を考える(1) Unit 4 “To Our Future Generations”を使ってCLIL の4Cを考える。	講義・演習	予習:該当部分の予習	90
4	4 CLIL を取り入れた英語授業を考える(2) Unit 4 “To Our Future Generations”を使って具体的なアクティビティ内容を考える。	講義・演習	予習:該当部分の予習	90
5	5 授業の展開および学習指導案の作成方法	講義・演習	予習:該当部分の予習	90
6	6 担当範囲の授業計画・学習指導案・配布資料の作成および助言	演習	予習:該当部分の予習	90
7	7 模擬授業① Unit 1 “Pop Culture Then and Now その1” (Introduction、1-1、1-5)(授業評価と講評、本講義のまとめ)	演習	予習:該当部分の予習	90
8	8 模擬授業② Unit 1 “Pop Culture Then and Now その2” (1-2、1-5)(授業評価と講評、本講義のまとめ)	演習	予習:該当部分の予習	90
9	9 模擬授業③ Unit 1 “Pop Culture Then and Now その3” (1-3、1-5)(授業評価と講評、本講義のまとめ)	演習	予習:該当部分の予習	90
10	10 模擬授業④ Unit 1 “Pop Culture Then and Now その4” (1-4、1-5、まとめ)(授業評価と講評、本講義のまとめ)	演習	予習:該当部分の予習	90
11	11 模擬授業⑤ Unit 5 “Living with Robots ? For or Against その1” (Introduction、5-1、5-5)(授業評価と講評、本講義のまとめ)	演習	予習:該当部分の予習	90
12	12 模擬授業⑥ Unit 5 “Living with Robots ? For or Against その2” (5-2、5-5)(授業評価と講評、本講義のまとめ)	演習	予習:該当部分の予習	90
13	13 模擬授業⑦ Unit 5 “Living with Robots ? For or Against その3” (5-3、5-4、5-5)(授業評価と講評、本講義のまとめ)	演習	予習:該当部分の予習	90
14	14 模擬授業⑧ Unit 5 “Living with Robots ? For or Against その4” (5-3、5-4、5-5)(授業評価と講評、本講義のまとめ)	演習	予習:該当部分の予習	90
15	15 授業展開・指導方法・学習指導案・模擬授業全般に関する振り返り／総括	講義	予習:該当部分の予習	90
16				
17				
18				

19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	1. 英語教科教育法 I・II で学修した各種教授法の基礎知識 2. 中学校1～3年生で使用する教科書の基本知識および高等学校で使用する教科書の予備知識 3. 小学校・中学校・高等学校における学習指導要領の基礎知識			
テキスト	New Horizon English Course 3(東京書籍) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』(2016) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編』(2015)			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	・金森憲他『英語授業ハンドブック・中学校編』大修館書店(2013) ・金森憲他『英語授業ハンドブック・高校編』大修館書店(2013) ・望月昭彦・磐崎弘貞・卯城祐司・久保田章(著)『新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第3版』大修館書店(2018) ・文部科学省『中学校学習指導要領』(2016) ・文部科学省『高等学校学習指導要領』(2015) その他、適宜授業中に紹介する。			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	1. 毎回、次時の模擬授業の範囲を全員予習してくること 2. 英語力強化を目指し、継続的に英単語力・英文法力・構文力を身につけるように努めること 3. 英語教育に関する新聞記事や時事問題には日頃から敏感になり、情報収集に努めること 4. 英語教師としての資質を磨き高めるため、日頃から自己研鑽に努め、ボランティア活動や英語指導には積極的に参加すること			
達成度評価に関するコメント	①発表(40%)・・・学習指導案と模擬授業 ②レポート(20%)・・・模擬授業実施後の自己評価と振り返りのレポート ③レポート外の提出物(20%)・・・模擬授業の評価シート ④その他(20%)・・・討論への積極的な参加、質疑応答など ※①～④を総合的に評価する。			